優勝を目指して競り合う選手たち（トップストーン―鎌田）

タイムス少年サッカー

鎌田 連覇逃し準優勝

トップストーン（宮田）が初V

第二十一回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップ（市民タイムス、松本市サッカースポーツ少年団連合会主催、カガミグループ協賛）は十九日、松本市の総合球技場・アルウィンなどで準々決勝以上の8試合が行われた。決勝は連覇を狙う鎌田とトップストーン（上伊那郡宮田村）の顔合わせとなり、後半に1点を挙げて逃げ切ったトップストーンが初優勝した。

十二日に行われた1―3回戦を勝ち上がった8チームがしのぎを削った。決勝は前線に得点力のある選手を置いたチーム同士の戦いで、ゴール前で見応えある攻防が繰り広げられた。3得点の活躍で攻撃をリードしたトップストーンの木下諒君（五年）が最優秀選手賞に輝き、「パスを受けて前を向く姿勢が出せ、シュートまで持ち込めた」と笑顔を見せた。優秀選手には鎌田の渡辺臣人君（五年）が選ばれた。

準々決勝で敗れた各チームにも敢闘賞が贈られた。閉会式では上位チームを表彰して連戦を戦い抜いた頑張りをたたえ、大会長の新保力・市民タイムス社長は「大会で学んだことを糧にして大きく成長してほしい」と述べた。

▽決勝
トップストーン 1（0―0、1―0）0 鎌田

【評】鎌田は連戦の疲れで出足が遅れ、前半から押し込まれる苦しい展開が続いた。ここまで無失点の守りは最終ラインが踏ん張り、再三、相手の厚い攻めをはね返したが、後半13分に右サイドを破られ1点を失った。サイドに起点をつくりきれなかったことで中央からのドリブル突破が生きず、FW大沢を中心に攻勢をかける時間帯もあったものの1点が遠かった。

【関連記事14面に】